

近江梵鐘紀行

2025年（令和7）5月21日

滋賀県文化財保護課 古川史隆

0. はじめに

①梵鐘の魅力

- ・ 生きている文化財
- ・ モノ本来の環境

②私と梵鐘

滋賀県所在梵音具史料調査（平成 21～24 年度）

I. 梵鐘の基礎知識

1. 梵音具（ぼんおんぐ、ぼんのんぐ）

①梵音具の用途

- ・ 仏教における教団生活の規制、または宗教的雰囲気の高揚
- ・ 釈迦の在世中、すでに鳴器を用いて弟子集合の合図としていた（『増阿含経』）
- ・ 読経や非常の時を告げるものとしても使用
- ・ 諸天・善神の来臨を請う意味もある

②梵音具の分類

- ・ 梵鐘 ※口径 1 尺 8 寸（約 54.5 cm）以上
「洪鐘」「推鐘」「鯨鐘」「巨鯨」「華鯨」などの異名
- ・ 喚鐘（かんしょう）※口径 1 尺 7 寸以下
「半鐘」もこれとほぼ同義
- ・ その他
鰐口、雲版、銅鑼、鉦鼓など

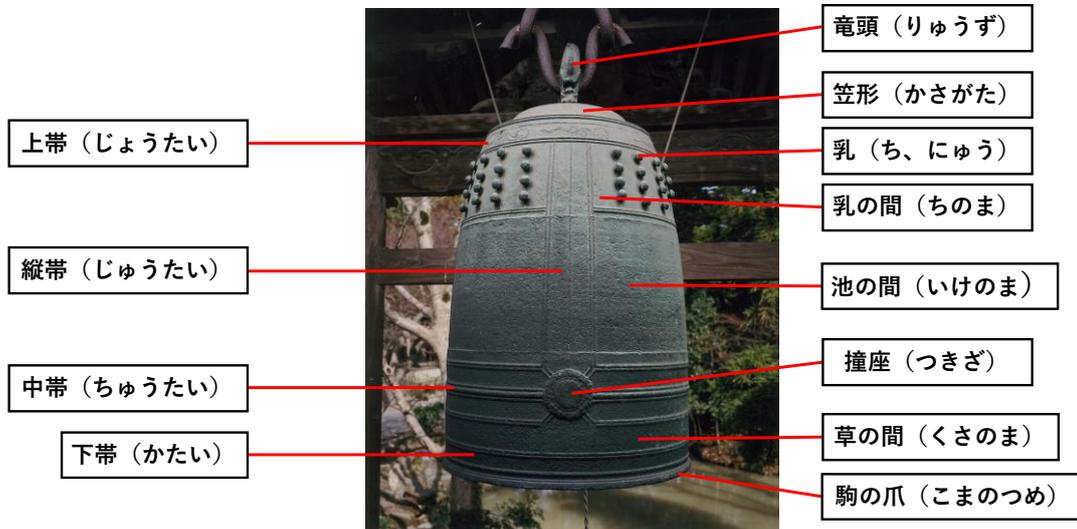
③和鐘の起源

- ・ 仏教の発祥地であるインドの楽器との直接的な結びつきはなく、古代中国の青銅器にその源流が認められる。
- ・ 紀元前 11 世紀の殷代の「鐘」（しょう）、あるいは紀元前 10 世紀から 8 世紀の周代の「甬鐘」（ようしょう）などが直接の起源と考えられる。
- ・ 六朝時代、陳の太建 7 年（575）銘の中国鐘の外観が和鐘にきわめて相似し、この種の鐘が手本となったと考えられる。

④日本への伝来

- ・ 欽明天皇 23 年（562）に銅鐘 3 口が高句麗よりもたらされた（『日本書紀』）。
- ・ 現存最古の作例は、戊戌年（698）の銘文を記した妙心寺（京都）の梵鐘。
※當麻寺（奈良）の無銘鐘を最古とする見解も

梵鐘（和鐘）の各部名称



⑤ 梵鐘の素材

- ・青銅（銅と錫の合金） ※ごく稀に鉄製
- ・淡黄色をしているが、酸化すると青錆が生じる（名前の由来）
- ・銅合金の中では最古の使用例。
- ・梵鐘製作では、湯のはしりをよくするため少量の亜鉛を混ぜることもある。

⑥ 梵鐘の製造技法

- ・鑄造製。溶解した金属（湯）をあらかじめつくられた型に流し込み、その型に等しい形の器物を製作する技法。
- ・鑄造には惣型鑄造、蠟型鑄造、削中型鑄造、踏返鑄造などがあり、梵鐘は惣型鑄造で製作される。

⑦ 竜頭 —注目すべき梵鐘の細部—

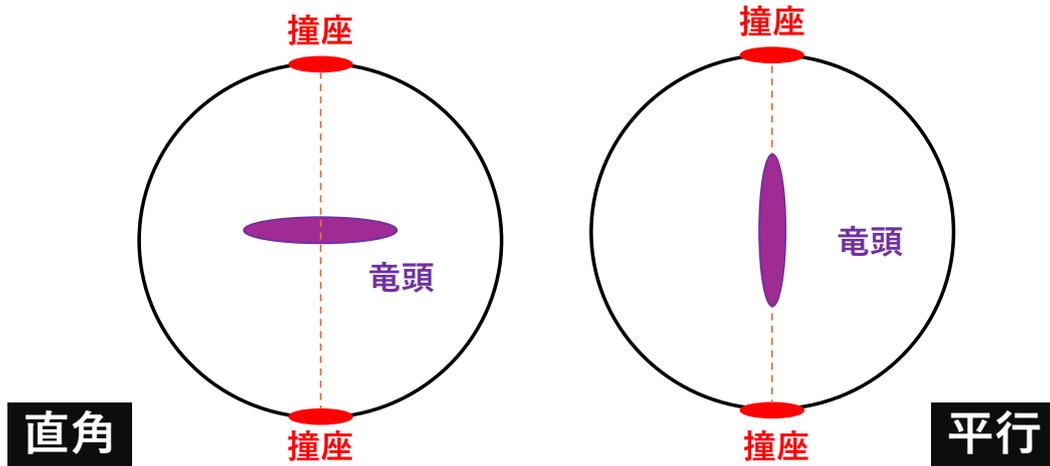
- ・竜頭というのは通称。蒲牢（ほろう）が正式名称。
- ・最上部に設けられた環状の懸吊（けんちょう）装置。二個の相反する獣頭（龍）をその頸でつなぎ、その上部に宝珠（火炎宝珠）を置く
- ・時代、製作者（鋳物師）によって作風が大きく異なる。

⑧ 撞座 —注目すべき梵鐘の細部—

- ・撞木を受けるために設けられた座。
- ・多くが蓮華文で、弁の形式は素弁、単弁、複弁に分類。
- ・撞座は相反する位置の2か所に設けるのを原則とするが、例外（1か所、3か所、4か所など）もある。
- ・撞座の位置は、古い時代のものほど高く、時代が下るにつれて低下。

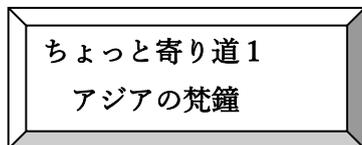
- ・撞座の位置と竜頭の方向の関係も時代判定の基準となる。
- ・竜頭と同様、時代、製作者（鋳物師）によって作風が大きく異なる。

二つの撞座を結ぶ線と竜頭の方向



⑧銘文 —注目すべき梵鐘の細部—

- ・鋳造の由来と功德、制作年、製作者名などを記述。
- ・奈良時代から平安時代前期の鐘では在銘のものが少なく、70 パーセントまでが無銘。
- ・銘文の表現方法は陽鑄、陰刻に大別。
- ・銘文の多くは池の間にあらわされるが、袈裟襷、駒の爪、笠形、鐘身内に記すものもある。
- ・記入時期によって、原銘、追銘、旧銘、後銘に分類される。さらに、偽銘も加えることができる。



II. 時代別にたどる近江の梵鐘

1. 奈良時代の梵鐘

- ・鐘身高、口径など、いずれの時代よりも大きい。
- ・無銘が多く、現存する16口のうち、銘文を有するものは4口のみ。
- ・撞座文様、乳の配列、竜頭の造形において統一的な基準が見られない。

- ・地域的な分布では、大和地方に集中。
- ・二つの撞座を結ぶ線と竜頭の方向が直角に交差。

◇園城寺（大津市） 梵鐘 重要文化財
 総高 197.3 センチ 口径 122.4 センチ 無銘

2. 平安時代の梵鐘

- ・現存作例は平安時代前期の 100 年間と、末期の 30 年間に限定。
- ・奈良時代の梵鐘よりも小型化。
- ・無銘鐘が減少し、有銘鐘が増加。
- ・撞座の位置は奈良時代より若干降下するも、引き続き高い位置にある。
- ・平安時代前期は、撞座を結ぶ線と竜頭の方向が直角に交差するも、後期になると 90 度動き、平行の位置に変化。

◇石山寺（大津市） 梵鐘 重要文化財
 総高 151.2 センチ 口径 88.8 センチ 無銘

◇善徳寺（近江八幡市）梵鐘 重要文化財
 総高 148.5 センチ 口径 78.2 センチ 無銘

3. 鎌倉・南北朝時代の梵鐘

- ・現存数が著しく増加（奈良・平安時代の 10 倍以上）。分布地も東北から九州に至るまで全国にいきわたる。
- ・ほとんどの梵鐘に銘が記される。
- ・乳の配列や撞座の位置などが、ひとつの基準に統一され、姿形ともに現在に至るまでの規範となる。
- ・撞座を結ぶ線と竜頭の方向は平行。
- ・南河内地方を拠点とした河内鑄物師が一大勢力を形成し、全国に展開。
- ・現存作例の数は、前時代に比べて若干減少する。これは戦国期の戦乱の影響によるものと考えられる。
- ・形状は、鎌倉・南北朝時代のものとほとんど変わらない。
- ・竜頭や撞座など、細部の造形は著しく形式化。

◇日吉神社（長浜市）梵鐘 重要文化財
 総高 117.9 センチ 口径 66.7 センチ 寛喜 3 年（1231） 土師宗友

◇金剛輪寺（愛荘町）梵鐘 県指定文化財
 総高 141.6 センチ 口径 82.0 センチ 乾元 2 年（1303） 河内助安

- ◇正源寺（大津市） 梵鐘 県指定有形文化財
総高 98.8 センチ 口径 56.0 センチ 正応 3 年（1290） 矢田部宗次
- ◇明王院（大津市） 梵鐘 県指定文化財
総高 75.0 センチ 口径 44.3 センチ 貞治 2 年（1363） 橘末安
- ◇願乗寺（米原市） 梵鐘 県指定文化財
総高 93.5 センチ 口径 55.2 センチ 応安元年（1368）

4. 室町・桃山時代の梵鐘

- ・室町時代の現存作例の数は、前時代に比べて若干減少する。
- ・形状は、鎌倉・南北朝時代のものとほとんど変わらず。
- ・竜頭や撞座など、細部の造形は著しく形式化
- ・桃山時代になると、戦国時代に荒廃した寺社の復興が盛んにおこなわれたため、铸造数も著しく増加。
- ・鐘身高、口径が大きくなり、巨大な梵鐘の製作が増加。
- ・乳の総数が 108 個の作例が出現。

- ◇正休寺（大津市） 梵鐘 大津市指定文化財
総高 144.5 センチ 口径 80.2 センチ 延徳 3 年（1491） 国久
- ◇多賀大社（多賀町） 梵鐘 県指定文化財
総高 209.2 センチ 口径 127.0 センチ 天文 24 年（1555）
- ◇園城寺（大津市） 梵鐘 県指定文化財
総高 208.0 センチ 口径 124.8 センチ 慶長 7 年（1602） 杉本家次

5. 江戸時代の梵鐘

- ・铸造技術は優れている者の、規格化・形式化が著しく進行。
- ・製作数は全時代を通して最大。
- ・鐘身の装飾が過剰。
- ・従来の規範に則らない型破りの梵鐘があらわれる（袈裟襷をなくす、5 撞座、乳をなくす）

- ◇延暦寺明王堂（大津市） 梵鐘
総高 162.1 センチ 口径 91.7 センチ 寛文 5 年（1663） 近藤丹波掾（藤久）
- ◇浄厳院（近江八幡市） 梵鐘
総高 214.2 センチ 口径 112.0 センチ 寛保元年（1741） 金屋村铸物師惣中
- ◇不動寺（大津市） 梵鐘
総高 145.2 センチ 口径 77.5 センチ 文化 10 年（1813） 高谷忠兵衛尉政次

ちょっと寄り道2
梵鐘の受難

Ⅲ. 近江の鋳物師たち

近江の代表的な鋳物師

八田部鋳物師、長村鋳物師、八日市金屋鋳物師、辻村鋳物師、寺庄鋳物師、和邇鋳物師、多賀鋳物師、三俣鋳物師など

1. 八田部鋳物師

- ・正応3年(1290)の天津市・正源寺鐘(神田神社旧蔵)が現存最古。
- ・鎌倉時代から室町時代にかけての作例が集中。
- ・「矢田部」(正源寺)、「弥田部」(上許曾神社)、「八田部」(大澤寺、泉神社)の呼称がある。
- ・本貫地については坂田郡(現在の米原市小田)と推定される。

2. 長村鋳物師

- ・愛知郡長村(東近江市長町)を本貫地とする。
- ・康暦元年(1379)の愛荘町東漸寺鐘(豊満神社旧蔵)が現存最古の作例。
- ・東漸寺以降の作例は、貞享4年(1687)の彦根市北野寺鐘までなし。
- ・鋳物師は、中村姓、黄地姓を名乗る。

3. 八日市金屋鋳物師

- ・蒲生郡八日市金屋(東近江市八日市金屋)を本貫地とする。
- ・天文5年(1536)の長命寺鰐口が現存最古の作例で、梵鐘では慶長16年(1611)の願成就寺鐘が最古。
- ・鋳物師は、堤姓、田中姓大塚姓などを名乗る。

4. 辻村鋳物師

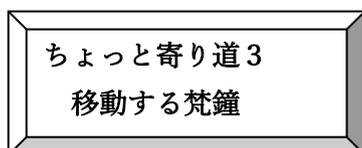
- ・栗太郡辻村(栗東市辻)を本貫地とする。
- ・元和6年(1620)の油日神社鐘が現存最古の作例。
- ・鋳物師は、国松姓、太田姓、高谷姓などを名乗る。
- ・三条釜座の鋳物師として天正18年(1590)兵主神社鰐口や慶長15年(1610)の秋田市・西善寺梵鐘を製作した辻与二郎は辻村出身である。

5. 寺庄鋳物師

- ・甲賀郡寺庄村（甲賀市甲南町寺庄）が本貫地とする。
- ・北川姓、望月姓を名乗る。
- ・作例は18世紀に集中。
- ・辻村鋳物師から影響を受けたか？

6. 三条釜座鋳物師 ー近江以外の鋳物師ー

- ・鋳物師の同業者組合で、平安時代より京都三条（京都市中京区三条通新町西入釜座町）に居住していたと推定される。
- ・室町時代末より活動を広げ、生産品は梵鐘をはじめとして、鰐口・灯笼・擬宝珠、さらに鍋・釜・鉄瓶などの日常雑器に至る。優美な茶の湯釜でも名を馳せる。
- ・滋賀県内における現存最古の作例は天正3年（1575）の蓮台寺鐘。



IV. 近江の梵鐘をたずねて

1. 龍王寺（竜王町）

- ・説話に富んだ霊鐘

◇梵鐘 重要文化財 総高 117.5 センチ 口径 66.0 センチ 奈良時代 無銘

2. 菅山寺（長浜市）

- ・山から下りた梵鐘

◇梵鐘 重要文化財 総高 127.6 センチ 口径 69.7 センチ 建治3年（1277）
丹治国則

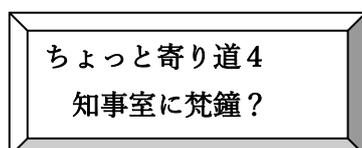
3. 園城寺（大津市）

- ・三井の晩鐘

4. 正福寺（湖南市）

- ・生きている文化財

◇梵鐘 総高 126.4 センチ 口径 71.2 センチ 宝暦12年（1762） 高屋忠兵衛政次



【参考文献】

郡志類

『近江蒲生郡志』、『近江栗太郡志』など

坪井良平

『日本の梵鐘』、『日本古鐘銘集成』、『梵鐘の研究』、『梵鐘実測図集成』など

久保仁平

『鐘の戸籍』(一)・(二)

次回、滋賀の文化財講座「花湖さんの打出のコツチ」は

第2回 6月18日(水)

湖国の文化財建造物

～新県指定と近年の保存修理状況～

講師：坪田 叡伴（滋賀県文化財保護課）

[講座メイン会場] コラボしが21 3階大会議室 ～受付中～

[サテライト会場]

彦根市・稲枝地区公民館 ～受付中～

長浜市・曳山博物館 伝承スタジオ ～受付中～

湖南市・共同福祉施設 サンライフ甲西 ～受付中～

米原市・米原市役所 ～受付中～

申し込み方法は各会場で異なります。

詳しくはチラシまたは琵琶湖文化館ウェブサイトにてご確認ください。

